

カリスマ外国人経営者に想う事

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

日産自動車の前会長カルロス・ゴーン容疑者が巨額の報酬を隠したとして東京地検特捜部に逮捕され、2週間が経過した。

それにしても、カリスマ経営者とは言え、誰が見ても驚愕の数字である。その内容は土地や建物、絵画など価値が流動的なものでなく、いわばサラリーである。

主要企業トップの給料を国際比較すると、日本の会社で出世街道を登り詰めた管理職の報酬は著しく低く、CEOの給与は圧倒的に高額である米国の10分の1、欧州の4分の1程度と言われている。

とは言え、ゴーン氏着任当時の待遇には、皆が驚いたものだが、我が国の象徴的企業である日産自動車が無くなっては洒落にならないと、リストラされた日産社員以外、実害の無い日本人は何となく納得したものと記憶している。

あれから20年近く、タクシーも含め、街中がトヨタの車で溢れ、スカイラインGTRよりもドイツやイタリアのスポーツカーのほうが多いように映るが、自動車通は、世界的に日産の電気自動車はバカ売れ状態だと言う。

さらに今回の事件。単なる所得隠しに留まらず、投資資金や会社経費を巡る「私物化」疑惑が浮き上がっている。海外の子会社を通じてブラジルやレバノン、フランスなど、自身にゆかりのある場所に高級住宅を設け、働いてな

い姉にも給与を提供。家族旅行の費用までをも日産に付け回していたと聞く。

そこで、あまりにもスケールが違うが、一部の話は失脚した舛添要一・元東京都知事の「けち臭さ」と被るものと感じる。そして、あの報道の際、まだまだ開き直っていた彼が「東京都の都知事が、公務でエコノミークラスに乗って二流のビジネスホテルに泊るんですか？」と記者に息巻いていたシーンを思い出した。

それはそれで真理であり、妥当な業績をあげれば、役人でも社長でも、創業家以外の責任者も、それなりの贅沢を享受して然るべきと思う。

そして舛添氏は、全く本業を評価されずに追放されてしまったが、カルロス・ゴーン氏は着任後僅かな期間で奇跡的なV字経営回復を日産にもたらし、日本にとっては、ある意味、恩人であったわけだ。台湾企業に買収されたシャープの社長も兼任し、同様の成果を上げてもらったかったほどだ。

そこで私自身はカルロス・ゴーン氏が好きでも嫌いでもないし、日産の株主でもないが、つくづく人間の気持ちちは脆いものと思う。

単に滞在期間が長すぎたのでは……しがらみのない異国で大銃を振るう改革を果たし、英雄視されているうちに、日本にもフランスにもしがらみが出来てしまったのであろう。

世界的な大物の逮捕には、国際的な

注目や反発が起こることを十分に想定したうえで、東京地裁の判断であろうし、これから検察側と弁護側の激しい対立が続くわけだが、世論は単純に「日本人を舐めるな！」だ。

とにかくゴーン氏は長く日本に居すぎたがために人格や志が変わってしろう。南アフリカに勝利し、いきなり英雄視されたエディ・ジョーンズ監督の如く去り際に美しくければ、銅像が建つ人物になっただけだ。先送り報酬と考えていたようだが、もっと早く逃げればと、独房で後悔していることであらう。哀れな実話だ。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳寺大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/> 名古屋甲状腺診療所（名古屋分院） <http://www.kojin-kai.jp/nagoya/> さっぽろ甲状腺診療所（札幌分院） <http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>



表参道日記